

山崎 真実¹: 北海道望来海岸へのコアホウドリの漂着

Mami YAMAZAKI¹: *Diomedea immutabilis* washed ashore on Morai coast, central Hokkaido

コアホウドリ *Diomedea immutabilis* (アホウドリ科) は大型の海鳥であり、北太平洋の亜熱帯以北の外洋に広く分布する。主な繁殖地はハワイ諸島及びミッドウェー諸島であり、現在日本では小笠原諸島^{おがさわら}鳥島属島の鳥島で少数が繁殖するのみで(山階 1931; 財団法人山階鳥類研究所 2002), 絶滅危惧 I B類に指定されている(環境省 2002)。非繁殖期である夏季には北海道でも太平洋側の沖で観察され(高田 1991; 高田 2001; 河井ほか 2003), 悪天候の後に海岸付近に迷い込んだ個体が保護されることがある。北海道内の漂着記録は2003年8月19日えりも町百人浜(図1)に、ハワイ諸島 Tern 島で足環を付けられたコアホウドリ1個体が漂着している(石川 2005)。

一方、全国的に日本海側でのコアホウドリの目撃や保護および漂着の記録は少なく、北海道の日本海沿岸で観察記録はない(財団法人日本野鳥の会札幌支部私信)。日本海側での漂着記録は1975年2月11日新潟県西蒲原郡巻町(現新潟市西区)四ツ郷屋海岸が初報告である(風間 1976)。比較的日本海に近い内陸では1934年12月28日に北海道江別市野幌(図1)で雄成鳥1個体が保護され、1935年2月4日まで飼育された(山階・井上 1935)。また、石川県内ではコアホウドリは不定期に飛来する迷鳥とされている(石川県 2009)。いずれの報告も日本海側へのコアホウドリの迷行は偶発的で原因不明としている。ただし、吉井(1983)はコアホウドリの行動範囲は広く、渡りのルートも単純ではなく多様であることを示唆している。

今回2008年9月28日に、日本海に面した北海道石狩市望来海岸無煙浜にてコアホウドリの漂着個体を採取したので報告する。これは北海道の日本海側で初めての漂着記録である。

望来海岸は札幌市の北東約30kmに位置する石狩市厚田区(旧厚田村)望来~無煙浜を指し、日本海に面して北北東に連続する外洋性海岸である(図1)。

コアホウドリの漂着状態は、衝波ブロックがない砂浜の波打ち際に頭部を陸側にして横たわり、翼の付け根部分に骨折がある他に外傷はなく腐敗が進んでおらず、羽毛と骨格がほぼ完全に保存されていた(図2)。

個体サイズおよび羽色は、翼開長約136cm、全長約68cm、体色は頭部から腹全体は白く、目の周囲と翼が黒い。嘴は長さ約10cmで薄桃色、先端が灰色で下向きに曲がる(図3)。これらの特徴からコアホウドリと思われたが、道内の日本海側で記録がないため確証がもてなかった。そこで財団法人日本野鳥の会札幌支部および環境省・羽幌町北海道海鳥セン

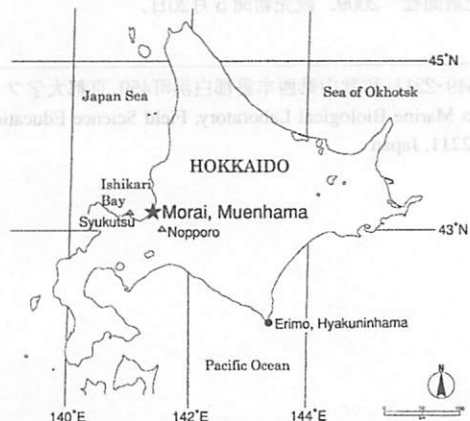


図1. 漂着地点(★). ●: 北海道内でのコアホウドリ漂着記録地点. △: 北海道日本海側でのコアホウドリの保護記録地点。



図2. 漂着状態。(2008年9月28日石狩市望来海岸無煙浜)



図3. 漂着したコアホウドリの頭部。

ターに同定を依頼した結果、コアホウドリと確認された。なお、羽色が雌雄同色であるため、性別はわからない。足環は無かった。

発見前後の気象について、気象庁観測地点「厚田」のデータ（気象庁ホームページ 2008）から検証した。日平均気温は2008年9月24日から15℃未満となり、その後下がり続けている。日平均風速は同年9月23日から27日に強まり、発見前5日間の最多風向は西または西北西から北西でほぼ一定方向である（図4）。本報告の個体が日本海側に迷い込んだ原因および死因は不明であるが、上記の気象条件と遺体の外傷が少なく腐敗が進んでいないことから、海上で死亡した後に長時間漂流することなく北西風に運ばれて海岸に打ち上げられたと考えられる。

なお、同年8月25日に小樽市市内でコアホウドリ1個体が保護され、同日中に同市内祝津豊井浜海水浴場

（図1）で放鳥されている。現地の鳥獣保護員の観察ではこの個体は「体長約80cmで成長並みの大きさだが、成長か幼鳥かは不明」（北海道新聞 2008年8月26日掲載）であった。望来海岸と小樽市祝津は直線距離で約36kmだが、小樽で保護された個体と今回の漂着個体が同一個体かどうかは不明である。

今後、今回採取した個体の胃内容物を調査し、骨格標本または剥製標本として札幌市博物館活動センターに収蔵する。

同定および情報収集でお世話になりました日本野鳥の会札幌支部事務局長住友順子氏、環境省北海道海鳥センター佐々木伸宏氏、日本野鳥の会会員菅原晴美氏、石狩自然誌研究会の皆様へ感謝いたします。

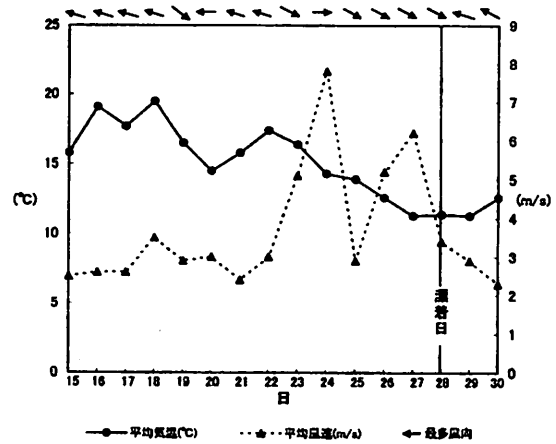


図4. 2008年9月後半の厚田における平均気温および平均風速、最多風向の日変動（気象庁ホームページ気象統計情報から作図。）

引用文献

石川県環境部自然保護課 2009. 改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生生物いしかわレッドデータブック動物編2009. 446pp. 石川県, 金沢.

石川慎也 2005. リレーエッセイ鳥参上 楽しい漂着物拾い. 財団法人日本野鳥の会札幌支部支部報カッコウ8・9月号: 15.

環境省 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—2 鳥類. 278pp. 財団法人自然環境研究センター. 東京.

河井大輔・川崎康弘・島田明英・諸橋淳 2003. 北海道野鳥図鑑. 399pp. 垂璃西社, 札幌.

風間辰夫 1976. コアホウドリ (*Diomedea immutabilis*) とチシマウミガラス (*Phalacrocorax urile*) 新潟県に渡来. 鳥25: 57-58.

気象庁ホームページ 2008. <http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>

高田勝 1991. 根室支庁管内鳥類リスト. 根室市博物館開設準備室紀要5: 1-17.

高田令子 2001. 根室支庁管内鳥類リスト. 根室市博物館開設準備室紀要15: 95-114.

山階芳麿 1931. 鳥島紀行. 鳥7: 5-10.

山階芳麿・井上元則 1935. コアホウドリ *Diomedea immutabilis* Rothschild 北海道陸地にて獲らる. 鳥9: 81-83.

吉井正 1983. 付録(2)コアホウドリ. 吉井正・叶内拓哉著. 渡り鳥. 93pp. 東海大学出版会, 東京.

財団法人山階鳥類研究所 2002. 鳥類アトラス鳥類回収記録解析報告書(1961年~1995年). 158pp. 財団法人山階鳥類研究所, 我孫子.

(Received Oct. 2, 2009; accepted Nov. 10, 2009)

¹ 〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ札幌市博物館活動センター

¹ Sapporo Museum Activity Center, 5F Linkage Plaza, North 1 West 9, Chuo-ku, Sapporo City, Hokkaido 060-0001, Japan